

自己評価報告書

令和2年3月14日現在

早稲田美容専門学校

令和2年3月15日作成

1 学校の理念、教育目標

教育理念	教育目標
<p>本校の教育理念は「礼儀・責任・融和」 時代が変わっても決して変わることはない、言わば「心の技」（正しい意識）を理解し、常にこれを磨いていこうとする人材を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none">・礼儀 人と人との社会生活を全うするために行う、人として行うべき作法・責任 自分が関わった事柄を最後までやり遂げようとする強い気持ち・融和 周囲の人と打ち解けて仲良くすること	<p>教育目標は「挨拶・清掃・工夫」</p> <ul style="list-style-type: none">・挨拶 コミュニケーション能力と人間性の育成・清掃 気づく心の養成・工夫 多様なニーズに応える技術・知識・センスの習得 <p>現場に直結した実習内容や、専任教員による実習授業、各種資格の取得など即戦力となる人材の育成を行っている。</p> <p>また、人間力を磨く教育として様々なジャンルの方による各種セミナー、海外研修や留学などで海外の文化に触れ、歴史や文化を学び視野を広げ豊かな感性を養える教育を目標としている。</p>

2 本年度の重点目標と達成計画

令和元年度重点目標	達成計画・取組方法
<p>本校の教育目標の達成を実践するべく、教員の人間力・技術力・授業力などを把握、ブラッシュアップして業界に求められる人材を教育、育成する。また、より良い教育環境をつくり、多くの学生が自己の目標を達成出来るよう学級運営を充実させ、在校生全員の満足度の向上を目指す。</p> <p>満足度の高い学校生活を送ることで進路意識を高め、切磋琢磨することが出来る承認レベルの高い学校運営を目指す。</p> <p>学生が安心して学べる学級環境をつくり、人間関係等のトラブルによる退学者が出ないようにする。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 技術の勉強会や、授業研究などを用い向上を図る 2 授業評価制度や専門技術の確認システムを有効に推進する 3 最新の業界に関する情報を教職員で共有し学生へと伝える 4 HPに加え、インスタグラム等 SNS で活動内容を公開していく 5 ハイパーQU を導入し、学生一人一人の心理状態を把握する 6 今年度より新入生オリエンテーションにイベント性を持たせ、新入生同士がコミュニケーションを取りやすい環境を作った。その後のフォローが機能するように教員同士で情報を共有していく。 7 当校学生が積極的に行っているフォトシューティングによる写真作品づくりを、よりレベルの高いものにするためクラブ活動として援助している。2年生部員が1年生部員と共同で活動できる場を提供して業務の引継ぎを円滑に進める。 8 良い人間関係を活性化させる構成的グループエンカウンターの活用法を教員研修で全ての教員が習得できるようにする。

3 評価項目別取組状況

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の理念・目的・育成人材像については、わかりやすく、具体的に示しており、学生・教職員にもよく周知徹底されている。学外への公表は、主に学校案内パンフレット・ホームページで行っているが、大変好評であり、今後もコンテンツの充実を図っていく。</p> <p>『礼儀・責任・融和』を身につけられる環境づくりを続けていく。</p>	<p>業界が求める人材像、時代に合った人材像をキャッチし、カリキュラムの見直し、実現性を的確に行っていく。</p> <p>また、必要に応じて教員の技術は勿論、業界の現状の知識のレベルアップを計っていく。</p> <p>教職員が『礼儀・責任・融和』を念頭に学校生活をサポートする。</p>	<p>業界が求める人材、時代にあった人材を育成する為に教員が現場の状況を直接感じることができるよう卒業生やその他業界人とのコミュニケーションを積極的に行っている。</p> <p>学生の自主性を尊重している。企画書などを提出してへアショーやクラブ活動、イベント等を立案してくる学生に対し積極的に支援している。</p> <p>『礼儀』をもって接し、目標達成の意志がある学生には『融和』の大切さを伝えるべくテーマを与え『責任』をもってやりとげられるように指導している。</p>

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校の目的は基準 1 で示したとおり明確に定められ、学校運営方針も校長を長とする課長級以上の教職員で構成する幹部会で策定されている。意思疎通を図るため毎朝会合を行っている。決定事項については議事録などの文書と口頭による伝達により行っている。</p> <p>事業計画のうち、財務に関しては策定されている。</p> <p>運営組織図は明確に定められている。意思決定機能は、幹部会が掌握しており効率的に意思決定がなされている。</p> <p>人事や賃金での処遇に関する制度は整備され、職員のやる気や能力を適切に評価する体制ができています。評価シートや評価結果の一覧表などのフォーマットは完成している。</p> <p>教務に関する業務効率化を図る情報システム化は整備されている。また、教職員の業務効率化のため、ほぼ 1 人 1 台のパソコンが配置されている。</p> <p>学生募集に関するデータは管理されており、業務効率化は改善されてきている。</p> <p>教育活動等に関する情報提供については、今後の課題として取り組んでいく必要がある。</p> <p>教育活動等に関する情報提供について、本年度よりシラバス等、一部ホームページに掲載している。</p> <p>昨年度より校内システムのインフラ整備を進めており、本年度は、PC、サーバー、インターネット回線等の入れ替え更新作業を実施した。今後も必要とされる IT 関連機能の向上を進めていく。</p>	<p>教職員の業務効率化と学校運営における新時代の対応に向けて、校内システムのインフラ向上を目指したシステム構築をさらに進めていく。ハード面のみならずソフト面においても、新時代に対応すべき設備を備えていく。</p> <p>また、建築物や校内設備においても、老朽化した設備や構築物を点検および更新に力を注ぎ、安全で清潔な教育環境の構築をすすめていく必要がある。</p> <p>さらに、教職員に対する、業務スキル向上のためのキャリアアップ支援も学校が必要に応じて行っている。</p>	<p>残業管理や給与体系の合理化をはかり、すべての教職員が公平に評価される制度が確立されている。</p> <p>幹部会議や教職員会議など、情報の伝達は一斉に伝わるように配慮されている。</p> <p>また、幹部会議において決定した重要事項及び緊急事項についても、それぞれの部の長から所属職員に伝達することになっている。</p> <p>教職員の労務管理については制度改正に適切に対応している。</p> <p>2019 年度におけるシステム更新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PC（教職員用）を windows10 へ移行 ・ 高速インターネット回線の導入を実施 ・ イベントホールにおける無線ネット環境の構築を実施

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>国家試験課題と現場に望まれる技術とのバランスを考えて、カリキュラムを作成している。</p> <p>美容室の割合に対しての人材確保ができていないのが、今現在の美容界の状況である。シャンプー、カラーなどアシスタント時の業務に役立つようなカリキュラム作りを行い1日も早く技術者として活躍できるよう考えている。</p> <p>国家試験課題は、特に学科の苦戦が予想されるため1年時より定期的にマークシートを使い国家試験と同じ条件で模擬試験など行っている。これによりマークシートの記入ミスや、各個人が自分の苦手課題が何であるか明確になり、今後何をすべきかなど学生自身が分かるようになっている。</p> <p>新2年生は国家試験課題が変更されて初の受験生となるので十分考慮しながら対策にあたる。</p> <p>非常勤講師との連携およびコミュニケーションを密にすることで、国家試験対策を強化していく。</p> <p>キャリア教育を行う上で業界の特色と時代背景を反映したものでなくてはならないため、技術者としてだけではなく、社会人としての教育も必要である</p>	<p>学生の学力・技術レベルに応じた授業を教務会議で検討する。</p> <p>外部講師からも意見を上げてもらい、積極的に授業に組み入れて行く。</p> <p>模擬試験の結果を踏まえてフォロー講習対象者を確定する。</p> <p>新たに国家試験科目となった教科に対し、常勤の教員が教員資格を有し国家試験対策に臨む。</p> <p>特に新課題については、資格を有する常勤の教員を中心に、あらゆる出題傾向を想定して対策にあたる。</p> <p>キャリア教育としての業界の話や社会人としての常識・マナーの教育も進めていく。</p>	<p>特進クラスを設け、目標をもって授業が行えるようにしている。</p> <p>夏休み冬休みなどを利用して、サロン実習なども行い美容室での業務内容などを確認できるように工夫している。</p> <p>着つけ、メイク、エステ、ネイルなどトータル的に美容技術が習得できる。</p> <p>授業内だけでなく、イベント等の企画書も学生から受け付けており、企画書作成からイベントを開催するといった業界で求められる力をつける教育にも力を入れている。</p> <p>ベテラン教員の模擬授業を受けた後、若手が模擬授業を行い、更にフィードバックするといった工夫も行っている。</p>

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>毎年の資格取得者数を比較検討し、資格試験対策を行っている。試験に対する意識の低い学生に対しては放課後のフォローを実施している。</p> <p>目標達成と生徒指導の充実を図るため、毎日全職員で朝礼・終礼を行い、学生の状況を報告し合い、必要に応じて早めの情報収集と教育相談等にあたり必要な指導を行っている。</p> <p>社会的活躍やコンテスト入賞を目指し、今後の対策として入賞作品の研究をすると同時に計画的に練習をしていく。</p> <p>学生から上がってくる様々なイベント企画を企画書の作成から指導して実行まで導いている。これにより企画運営力のある人材育成を目指す。</p> <p>就職に対する基礎的な知識を得るために、関連業者による就職セミナーを行っている。</p>	<p>指導方法と正答率との関連性を調査する。</p> <p>同窓会や各学科教員の協力体制を強化し、常に新しい情報収集することを心がける。</p> <p>コンテスト等に出場する学生に対して特別講習を行っている。</p> <p>フォトシューティングクラブを発足、学校の撮影機材の貸し出しや教室の提供を行い学生のレベルアップと活性化を図る。</p>	<p>全アジアヘア&メイクアップコンペティション(AHA) 東京大会にて2名入賞。香港大会出場。</p> <p>ミルボン・フォトレボリューション(フォトコンテスト) 参加。</p> <p>フォトシューティングクラブ、ダンス部共に学生からの企画立案に応えた形で発足となった。他にも体験入学会でのヘアショーの開催等、企画立案する在校生が増えている。今後も学生の自主性を伸ばすためにも積極的に要望に応え援助していく。</p> <p>トニー&ガイのフォトコンテストにてジャーナル賞にあたる infaspublications 賞を受賞した。</p> <p>全国美容学生技術大会ワインディング部門にて本校学生が全国大会へ出場した。</p>

基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・就職支援に関する体制は整備されており、求人に関する最新情報の学生への伝達、説明会や面接の申し込み等の企業への連絡もスムーズに行われている。活動状況を就職課で把握している。 ・学生相談に関しては担任、学年主任、部長等で連携を取りながら行っている。今後は留学生にも相談しやすい環境づくりをしていく。 ・経済的な問題を抱える学生に対しては、奨学金の利用ができるよう取り計らっている。また希望者には分納にも応じている。 ・学生の健康管理は学校として年1回の健康診断を行っている。ふだんより病気予防のための指導をクラスで行っている。 ・希望者には校内にてインフルエンザの予防接種を行っている。 ・課外活動として平成15年度から都立松澤病院内に出向き、意志疎通の弱い入院中の老人に対しエステ、ネイル等の美容の施術を行うボランティア活動が続けている。授業では学べない貴重な社会体験となっている。 ・地方からの入学者に対しては親身に住居の相談にのり、学生寮・アパート等の紹介を行っている。 ・出席状況に問題が生じた学生に関してはいち早く保護者への報告を行い、状況によっては、保護者との面談も行っている。 ・校友会の活動としては年に1回イベントの開催を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、在学数をはるかに上回る求人がきている。就職する意志があれば就職できる現況であるが、選択肢が多く逆に選択に迷いの生じる学生が多くなっている。決めかねている学生には、就職課や担任である程度選択をしばり、紹介していく。 ・精神面に問題を抱えている学生が以前より増えている。保護者と連絡を取り合い情報の共有を心掛ける。 ・奨学金を生活費に使い込んでしまい、学費の滞納をする学生がいる。事前に奨学金の目的、借りる上での規則をしっかり理解させる。 ・引き続きインフルエンザ予防接種の呼びかけやうがい、手洗いの声かけを行っていく。 ・授業公開への出席を呼びかけ、授業や子供の学生生活を知ってもらうことで学校への信頼感を高める。 ・卒業生への連絡がとれにくい現状がある。メールアドレスの把握等を徹底していく。卒業生が来校した際にはメールアドレスの確認を行っている。 ・就職レクチャーはトータルビューティ科への導入を検討していく。 ・進路変更や意識の低下などを理由にトータルビューティ科の退学率が多い。 ・希望分野も様々なため、学生のタイプを早期に見極め、各学生に合わせたレベルでの指導が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に対する学生の満足感や充実感を上げ、安心して学校生活を送れるよう新たに『hyper-QU』（アンケート）を実施し、学生一人ひとりの傾向や問題点などを各担任が把握している。 ・学校公式の SNS を学生にフォローさせて、災害時の伝達を配信している。 ・人気店、有名店に内定している先輩から、具体的な話を聞ける機会を設けている。 ・関連業者に協力してもらい、授業形式で就職レクチャーを行っている ・日本教育カウンセラー協会認定のスクールカウンセラーが常勤し、いつでも対応できるような体制を整えている

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>充実した施設・設備に恵まれ、授業カリキュラムの中でも、実習室を最大限に活かすことが出来る工夫をしており、教育内容もレベルアップした。</p> <p>サロン実習、海外研修旅行、ワセビ留学支援プログラム、国内研修等多くの研修を行える環境が整えられており、教育内容は充実している。</p> <p>防災訓練の際、消防に立ち会ってもらい総評をいただいている。全校生徒が一度に防災訓練をしている事は防災について意識が高い。オリエンテーションの際も消防署長から講話を頂いている。</p> <p>全校生徒の本校からの距離を把握し、距離に応じた行動計画を策定した。教室には災害マニュアル、ヘルメット、メガホン、笛を常備。</p> <p>学生に対して災害時に使用できる防災対策用品セットを配布している。</p> <p>教室では、アルコール消毒液を教員全員が持ち、消毒徹底を励行している</p>	<p>授業を行う上で、更に良い教育環境を整備していく。</p>	<p>お茶室や着つけ室等日本の伝統文化を学ぶ事の出来る施設・設備を持っている美容学校は本校の特色である。</p> <p>ワセビ留学支援プログラムは、研修費の3分の2を学校で援助し、海外で様々な研修やセミナーが受けられる本校独自の特待制度である。</p> <p>新入職員に対して避難器具の説明や消火栓の取り扱い研修を毎年行っている。</p> <p>放課後や学校休業日にも教室を開放し、自主練習や作品撮りなどのサポートを行っている。</p> <p>サロン実習では、多くのサロン様に協力して頂き、サロンワークを学ぶことが出来る。就職試験に向けて重要な経験となっている。</p>

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>高等学校への情報提供は、進学相談会への参加、また高等学校教員には個別訪問を積極的に行っている。学生募集に関しては、適切に行っており、学校案内やパンフレット・ホームページには特色を分かり易く標記している。また、体験入学や入試説明会を月 2 回以上行っている。</p> <p>入学選考基準は、規定で明確に定めている。選考や合否判定は適切に行っている。入学選考の実績に関しては、インフォクラウドで管理し、学力に応じた指導を入学後行っている。</p> <p>学生の能力及び経済力を考慮した学納金を算定している。</p> <p>徴収金額はすべて明示している。</p> <p>入学辞退者に対し、授業料等の返還は学則・募集要項で明示している。</p>	<p>スマートフォンなどの 5G 導入に伴い、LIVE 配信や動画での募集活動の対応が必要である</p> <p>動画撮影を積極的に行ない、LIVE 配信が出来る環境を整える。</p>	<p>2020 年度からスタートする高等教育の修学支援新制度の認定対象校としての登録を受けている。 (2019 年 9 月 20 日認定)</p>

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>財務基盤については、応募者数等の数字の把握は毎年行っており、収支のバランスはとれている。学校の中長期的な財務基盤は安定しており、資金収支超過額及び消費収支超過額はプラスとなっている。しかし、積極的な設備投資を行った結果、学園全体の消費収支超過額についてはマイナスとなっている。</p> <p>法人運営に係る財務分析は行っており、教育研究費比率、人件費比率については、適切な数値になっている。資金収支やコスト管理については部門ごとに月次で適切に行っている。</p> <p>教育目標との整合を図って予算編成を策定している。編成過程及び決定過程は明確になっている。</p> <p>予算の執行計画を策定し、乖離しないよう適切に補正措置を行っている。</p> <p>予算執行にあたってのチェック体制は学園本部で行っており、適切な会計処理を行っている。</p> <p>監査は私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に実施し、理事会等で報告している。更に監査法人による監査を年2回実施している。</p> <p>財務情報においては、平成26年度より本校のホームページにおいて公開している。</p>	<p>来年度もプラスで推移できるよう、学生募集等を計画どおり行う。</p>	<p>財務公開規程を整備し財務帳票、事業報告書を作成しており、ホームページ上には財務情報と共に、事業報告書、監査報告書等も併せて掲載している。</p>

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関係法令等を遵守し、適切に学校運営を行っている。また、必要な諸規定を整備している。</p> <p>個人情報保護に関する規程や、情報機器使用についての規定は整備している。</p> <p>マイナンバーに伴うセキュリティの強化は現在取り組みをスタートしており、個人情報管理に関する啓発及び教育を引き続き行う必要がある。</p> <p>自己点検・自己評価は組織的に、毎年度行っており、毎年度、自己点検評価報告書を作成し、学校関係者評価委員会を行い、その結果をホームページで公表している。</p> <p>学校の概要、教育方針、教育内容、学校行事等についても、平成26年度よりホームページにて公開している。令和2年度よりスタートする高等教育の修学支援新制度の対象校としての要件を満たす情報公開資料についても、同様に web で公開している。</p> <p>学生の個人情報保護を目的とした対応を進めている。</p>	<p>マイナンバー制度の導入に対応して、社内における管理体制の強化や規定の作成等、更なる整備を進めていく。</p> <p>個人情報保護規定に基づく校内システムの構築を推進していく。</p>	<p>本校美容科及びトータルビューティ科は平成26年度に職業実践専門課程の学科として文部科学大臣より認定されている。</p>

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>・開校当時から社会貢献やボランティア活動に対して意識が高く、新宿区で毎月行われている「ポイ捨てキャンペーン」には、当初から欠かさず参加している。</p> <p>・充実した施設・設備のチューデントサロンを通して地域の方にも積極的に開放することで、地域とのコミュニケーションも生まれ、社会貢献に繋がっている。</p> <p>・教職員の声ばかりでなく学生自身からも提案があり、「エコキャップ活動」も行っている。</p> <p>・平成 28 年より新宿区主催のイベント「若者のつどい」にビューティースでエステ・ネイルの施術、出演するタレントに対してのヘア・メイク、さらに「小倉・桔梗流」による着つけパフォーマンスのステージを披露している。</p> <p>・平成 15 年より行っている都立松澤病院にて入院中の方々へのエステ・ネイルのボランティアに加え、本年度より新宿区立薬王寺地域ささえあい館にて、同様のボランティア活動を 4 月より開始している。</p> <p>・小学生の職場体験として近隣の小学校から美容の仕事を体験してもらう場として提供している。</p> <p>また、川口工業高校の職場体験として同様に提供している。</p>	<p>都立松澤病院からボランティア活動に対して、感謝状を頂き、今後も患者様の療養生活の質の向上に努めていく。</p> <p>選挙権年齢が 18 歳以上となり、校内にポスターの掲示や政治セミナーを行い投票に行くよう各クラス促していく。</p> <p>各種ポスター掲示により、社会貢献活動に参加を促している。</p>	<p>本校のボランティア活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本盲導犬協会募金 ・都立松澤病院ボランティア活動（ハンドマッサージ、ネイルなど） ・新宿区ポイ捨てキャンペーン ・エコキャップ活動 ・新宿区役所への清掃道具等寄贈。 ・昨年に引き続きアークⅢ（非常食）100 食分を山吹の里（特別養護老人ホーム）に寄付 ・新宿区立薬王寺地域ささえあい館でのボランティア活動 ・新宿区主催イベント「若者のつどい」参加 ・防災予防運動ポスターの掲示 ・献血運動ポスター掲示 ・悪質商法啓発ポスター掲示 <p>その他、校内ポスター掲示により、以下情報に関する告知を学生へ行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨髄バンクドナー登録ポスター掲示 ・デートDV相談窓口ポスター掲示 <p>・全国盲導犬施設連合会より盲導犬募金の感謝状を受領</p>

4 令和元年度重点目標達成についての自己評価

令和元年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>本校の教育目標の達成を実践するべく、教員の人間力・技術力・授業力などを把握、ブラッシュアップして業界に求められる人材を教育、育成する。また、より良い教育環境をつくり、より多くの学生が自己の目標を達成出来るよう学級運営を充実させ、在校生全員の満足度の向上を目指す。</p> <p>満足度の高い学校生活を送ることで進路意識を高め、切磋琢磨することが出来る承認レベルの高い学校運営を目指す。</p> <p>学生が安心して学べる学級環境をつくり、人間関係等のトラブルによる退学者が出ないようにする。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 教員研修等により、授業内容である学科・技術はもちろん、学生や保護者の対応にもレベルアップが出来ている。 2 ハイパーQU により、学生の個性を把握する努力をした結果、学級の状態はよくなっている。 3 本校教員が NPO 日本教育カウンセラー協会の初級カウンセラーの資格を得て認定カウンセラーとなった。これにより、専門学校では希少な常勤で教育カウンセラーのいる学校となった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 個人差のある教員の経験年数に合わせた OJT を行なっていく。 2 入学してすぐに友人関係を作れず孤立してしまう学生を減らす為、新入生オリエンテーションにグループワークのレクリエーションを取り入れ、コミュニケーションをとらなければならない状況を作っていく。 3 教育カウンセラーの知識と技術を発揮して、学生が安心して学べる学級運営を目指す。